

令和4年度 新潟市新バスシステム事業評価委員会 議事要旨

■日時：令和5年3月23日（木） 14：00～

■会場：生涯学習センター3階 305会議室

■出席者（敬称略）

委員

樋口 秀（新潟工科大学 建築・都市環境学系 教授）

大串 葉子（相山女学園大学 現代マネジメント学部 教授）

鈴木 文彦（交通ジャーナリスト）

能登谷 巖（新潟商工会議所 常務理事）

三科 俊（一般社団法人新潟青年会議所）

山崎 智美（NPO 法人ワーキングウイメンズアソシエーション）

■議事要旨

1. 開会

2. 委員自己紹介

3. 議事

- (1) 前回の振り返りと本日の開催概要（頁2～頁5）
- (2) コロナ禍における新バスシステム事業の現状（頁6～頁22）
- (3) コロナ禍における路線バス利用状況の分析結果報告（頁23～頁29）
- (4) 今年度の新バスシステム等に関する取組状況について（頁30～頁34）
- (5) 今後の新バスシステム事業の進め方について（頁35～頁40）

【新潟市】

資料に基づき(1)～(5)について説明。

●(2)(3)に対する主な意見

- ・コロナ禍前と比べて利用者数が8割となっているがコロナが原因なのか、運行事業者による需給調整によるものなのか評価が難しい。
- ・どこの地域でもこうした分析をしたことがない。非常に大切な分析になるので今後に活かせるようにしていただきたい。

●(4)(5)に対する主な意見

- ・最適な市民生活に必要なかつ、現状の資源が潤沢にない中で再度構築し直したうえで協定を結ぶ形が望ましいのではないかと。
- ・南北を通過する路線については新たな乗客の獲得やワクワクできる取り組みがあると良い。
- ・バスの機能を最も発揮できる場所に資源を集中させるという考え方がこれからは必要。

●全体を通じた意見

- ・運転手不足は一企業の問題ではなくて社会全体の問題である。
- ・新潟市の新バスシステムの仕組みは注目されており、踏襲しつつさらに新しい環境の中で最適解を求めているいただきたい。

5. 閉会

以上